

15 おしどり塚^{づか}

伝承地：一番町

参考書籍：3・4・6～9・11～13・18～21・28



(おしどり塚記念碑)

ある無住法師は、宇都宮氏と関係があるといわれている。すなわち、無住法師は源頼朝の武将梶原景時の孫で元治元年（1199）梶原氏の滅亡後、宇都宮5代城主頼綱の妻になっていた伯母（景時の娘）を頼って、宇都宮に來たといわれている。里人から聞いた話を後年、沙石集に書きとめたものであろうといわれている。明治27年8月（1894）、戸田香園撰文の「鷲鷲塚之略記」という碑文にも同様のことが記されている。

鎌倉時代のことです。二荒山神社の東側を流れていた求食川は、川岸に柳が茂っていて水鳥たちのよい住いでした。この求食川から、八幡山一帯を獵の場としていた獵師がおりました。

ある時、この獵師は一日中、獲物を求めて山を歩きまわりましたが、兎一匹さえしとめることができず、がっかりして家路につきました。そして、求食川のほとりを通りかかった獵師が、のどかに遊んでいる一つがいのおしどりを見つけました。獵師は、喜んで弓を引きしぼり矢を放ったところ、ねらい違わず雄のおしどりに命中しました。獵師は首を切り落として雄のおしどりを持ち帰りました。翌日、獵師が川岸を通りかかったところ昨日、おしどりを射とめた場所に一羽の雌のおしどりがうずくまっていました。獵師は動かないおしどりですので、簡単にしとめることができました。ところが、そのおしどりをあげてみたところ、昨日ころした雄のおしどりの首を羽の下にだいていたのです。

これを見た獵師は、鳥のもつ愛情に深く心を打たれ、今までの行いを後悔し頭をまるめ僧侶になり、川岸に塚を造り、石塔を建てておしどりの菩提をとむらったということです。

「おしどり塚」は、鎌倉時代に無住法師によって書かれた沙石集によって紹介された物語の跡地として、市の文化財に指定されている。

この話は、一つがいのおしどりと獵師のいきさつを物語にしたもので、同様の物語は全国に伝わっており、本県でも、佐野市に「おしどり塚」が存在する。

しかし、沙石集の著者で

